

2024（令和6）年度 福岡女子大学 外国人留学生選抜

〔 一般選抜試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は4ページから6ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 解答用紙には裏にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号を記入**してください。

問題 次の文章を読んで、後の問 すべてに 解答しなさい。

かつて私がオランダの先生を懐かしんで訪れたとき、一八歳を頭に四人の男の子たちが家に居てきちんとあいさつし、私を招いたお茶の時間にやや照れくさそうに参加していた。日本ではお父さんのところへお客さんが来るならばくは関係ないから外へ出かけようかなというティーンエイジャーが多いのではないだろうか。

日本ではこのように親が(1)ソーシャルスキルの手本をきちんと子どもに見せる機会が近年著しく少なくなっている。お父さんのつきあい、お母さんのつきあい、子どもの友だちづきあいと、家族の成員の属性、すなわち立場・年齢・性によって細分化され、それぞれのつきあいに他の家族のメンバーは関わりがない。日本人が家に友人やお客を招きたがらないのは住宅事情、ウチ・ソトの区別、忙しい日常生活であることやお客をもてなす支度が大変なことなどがある。現代の日本人は子どもの教育費として塾や参考書への出費はいとわず子どもの知的発達を重要視するが、子どもがあいさつや人づきあいのマナーを学べるような機会を持つことも子どもの社会性を育む大切な親の役目であると思われる。人にはどう接するべきなのかというマナーだけではなく、人づきあいを大切にする親の価値態度そのものを子どもは見ている。また少しあらたまった人づきあいが楽しいというより面倒だと感じる理由にも、(2)日本文化特有の行き過ぎた自己抑制の表示規則が関連しているのではないかと思った。

かつて、日本人は、家族のための茶の間とお客を招き入れる座敷を持ち、普段は使わないお客用の茶器や酒器を用いてお客をもてなした。もう少しくつろいだ近所づきあいでは玄関の上がり框や縁側が重宝した。いま、日本人は現代の核家族の簡略化されたライフスタイルとも折り合い、かつソーシャルスキルの手本をきちんと子どもに見せることのできる人づきあいの新しいスタイルを再構築する必要があると感じる。

イギリスにいと、緑と静寂のなかでしみじみとした幸福感に包まれることがあった。それはオックスフォード郊外の小さな村で、婦人会のボランティアらしき中年女性がいれてくれた紅茶を片手に公民館の庭の大きな木の下でベンチにぼんやりと座っているときだったり、曇り空の下、ハムステッドヒースを気のむくままにのんびりと

歩いているときだったりした。時間が止まったような感覚とひとりの人間として自由に生きていることの実感にひたる。自己意識が霧が晴れるように鮮明になっていく。アメリカに暮らしていたときのようなエキセントリックなほどの自己拡大感や、日本の社会で絶えず求められる謙虚な自己縮小感から解放されて、イギリスではニュートラルな状態で精神のバランスが保てるのだった。それはなぜか。あるいは私がイギリスの階級社会に組み込まれることのない外国人だったからかもしれない。けれどもそれ以上に、自分自身を自分以上のものにも自分以下のものにも見せる必要のないやすらぎからきているのではないだろうか。であるからこそ、(3)自己主張と自己抑制のバランスがとれるのである。

この自己主張と自己抑制のバランスのとれたイギリスモデルをヒントにして、新しい日本文化のシステムと合致する日本独自の新たな自己形成を模索していくことが、幼児期の子どもたちを、次世代を育成する私たち大人の課題である。

(佐藤淑子『イギリスのいい子 日本の子いい子 自己主張とがまんの教育学』より)

【注】

上がり框……「あがりがまち」は、玄関ホールと土間との境界部分のこと。

ハムステッドヒース……ロンドンにある自然豊かな公園。

エキセントリック……普通ではないさま。

ニュートラル……中立的。

問1 下線部(1)「ソーシャルスキル」に関して、次の①・②それぞれに答えなさい。

①筆者は本文中で、子どもの家での実践についてオランダと近年の日本とではどのような違いが見られると考えているか、あなたの言葉で簡潔にまとめて説明しなさい。

②近年の日本がオランダと異なる状況になっている原因の一つとして、日本の親が子どもに対してどういうことを求めているからと筆者は考えているか、あなたの言葉で簡潔にまとめて説明しなさい。

問2 下線部(2)に関して、近年見られる「日本文化特有の行き過ぎた自己抑制」に対して、従来日本の家で人づきあいを進めるためにしていた工夫や準備について、筆者はどのような具体例を挙げているか、あなたの言葉で簡潔にまとめて書きなさい。

問3 下線部(3)「自己主張と自己抑制のバランスがとれる」について、筆者は本文中において、どこの国でどのような経験をしたことを挙げているか、あなたの言葉で簡潔にまとめて説明しなさい。

問4 筆者の考えている日本における「自己主張」と「自己抑制」のありかたについて、あなたはどういう考えを持つか。筆者が挙げていない具体的な例を自分で取り上げながら、あなたの考えの根拠を明確に示して、論述しなさい。

